

地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト(北海道での取り組み)

【事業概要】

小学校から高校までの児童・生徒が職場訪問やものづくり体験など様々な体験活動を通して、「働くこと」や「社会人として必要なこと」を学び、自分の将来や仕事について考える機会を作る「キャリア教育」を学校教育のなかで実施。地域に密着した取り組みを進めるため、NPOや企業など民間のコーディネーターが中核となり、地域の企業や職人、教育委員会や学校等、関係機関とのネットワークを構築。

道内では、「小樽の産業資産を活用したキャリア教育事業」(コーディネーター：NPO法人北海道職人義塾大学校)と「Sapporo夢探究プロジェクト」(コーディネーター：キャリアバンク(株))の2件のプロジェクトを小中高等学校で実施。

小樽の産業資産を活用したキャリア教育事業(小樽市)

1. 職人によるものづくり指導

小中学校での取り組み

伝統的な職人の仕事の一部を学校でも体験できる「製作体験」を実施。「鑄造技術を使った銀のアクセサリ」のほか、「染めもの」「和菓子」など職人の指導を受けながら、ものづくりの楽しさ、職人の技や仕事に対する姿勢を学びました。

工業高校での取り組み

小樽市の堺町商店街に店舗を持つ「利尻屋みのや」の商品陳列棚を製作。店主の要望や店の雰囲気を活かして設計したものを、家具職人の指導を受け製作。完成した商品陳列棚は納品され、実際に店舗で使用されています。



2. 生徒の感想から・・・

- ・普通は会社で働くものだと思っていたけれど、こういう仕事(職人)もあるんだと思いました。職人という仕事を経験できて良かった。
- ・社会にはこんなにいろいろな職業があったことを改めて知りました。最後の方で銀を流すときに失敗したら嫌だなと思いました。いろいろな体験をさせてもらいました。

Sapporo夢探究プロジェクト(札幌市)



1. 地域との連携

札幌円山動物園プロジェクト

札幌市円山動物園、各新聞社等の協力を得て、円山動物園を舞台に「新聞記者」体験を実施。プロの記者のアドバイスを受け、園長の記者会見や飼育員への取材を行い、新聞を制作。チームで協力することや期限を守ることの重要性を学びました。また、完成した新聞は円山動物園にも掲示されました。

地域のシンボル“札幌ドーム”を教材に！

地域のシンボル“札幌ドーム”をテーマに、まずドーム建設に携わった人から話を聞き、その後ドームを訪問しそこで働いている人から話を聞くことで、さまざまな仕事があることを学びました。



2. マナー研修 ~学校と社会はつながっている~

小中高等学校でそれぞれ「マナー研修」を実施。「マナー」が相手に対する気遣いを形にしたものであること、「あいさつ」や「時間を守ること」、「クラスで協力して学校行事に取り組むこと」など、学校で日々実践にしていることは社会にでて仕事をするときにも大切であること、などを伝えています。

3. 生徒の感想から・・・

- ・ドームでは何よりも働いている人にすごく感動しました。働くことは人とのコミュニケーションなのだと思います。私もかっこいいと思われるように働きたいです。
- ・仕事をするうえで大事なことは、ただ仕事をこなすだけではなく、何か目標を立ててその目標に挑戦することなんだと思いました。